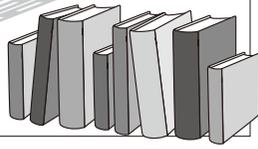


# 本棚



## ICRP Publ.113

### 放射線診断および IVR における 放射線防護教育と訓練

日本アイソトープ協会,  
ICRP 勧告翻訳検討委員会 訳



医療現場において電離放射線を使用する診断と IVR の実施数は着実に増加している。また、手技の複雑化などから患者と医療従事者の被ばくが高くなる症例も頻繁に実施されている。そのため医学生を含めた医師その他の医療従事者に対する放

射線防護の原則に関する教育と訓練の必要性は、これまで以上に差し迫ったものになっている。本書は ICRP Publication 103 及び 105 基本勧告を大幅に拡大し、医療放射線防護の責任を有する規制当局・医療機関と専門団体、放射線医療機器を製造販売する産業界、医療放射線の使用に係る専門職を教育する大学と学術機関を対象に、必要な放射線防護教育と訓練に関する指針を提供する Publication 113 の翻訳版である。放射線防護に関する知識自体についての内容ではなく、それを教育・訓練する手法の勧告であり、関係者にとって貴重な資料といえる。

本書は、医療における放射線防護教育・訓練の必要性から始まり、訓練対象となる医療従事者の分類、訓練に組み入れられるべき項目とその優先順位、最後に訓練を実施する側、受講した側それぞれの認定について、全 5 章で構成されている。1 章では、医療関係者の放射線防護に対する認識を高める必要性について述べている。最後に医療被ばくの正

当化を決定する要素の観点から画像読影の訓練まで言及されており、臨床的な要素の重要性は医療被ばくに固有の内容であり興味深い。2 章では訓練対象となる医療従事者について訓練を提供しなかった場合の影響や、従事者の職種別の分類について述べている。職種や業務内容により当然訓練内容も変わるべきであり、職種に応じた放射線使用状況の考察がなされている。3 章では放射線防護訓練の目的と組み入れられるべき項目について述べている。受講者を熱心に取り組みせ、それぞれが用いている手技に関連した放射線障害とリスクを理解させることの必要性に重点を置き検討されている。4 章では訓練のプログラムと訓練量について述べている。訓練を行う講師自体への要求事項や訓練方法について、オンライン評価システムの利用や開発を推奨している。また、オンラインシステムについて訓練受講者がインターネットを利用できれば、どこでも快適な環境で試験が受けられることから、自己評価試験システムの開発を推奨しており、これらの評価が重要な位置を占めるべきと勧告している。5 章では教育や訓練を修了したことを証明する認定証について述べている。大事なものは訓練をただ受講するだけでなく理解することで、認定を受けた者はその手技について適切な能力を有することを実証することが求められている。

本書は更に 3 種類の付属書が掲載されており、具体的な訓練内容例、小児放射線固有の放射線防護教育、訓練用教材の入手先について触れられている。訓練内容例では、核医学、IVR、心臓 IVR、手術室での X 線透視に従事する者を対象とした訓練において抑えるべきポイントが示されている。小児放射線に関して、小児患者の組織は放射線感受性が高く被ばく相談内容としても多い。また、患者体型の変動幅が大きいことから画質と患者線量の最適化が複雑であるため、その基本として防護教育内容を抑えておくことは、小児放射線学に係る者にとって大きな参考となる。また、本書では具体的な訓練教材は含んでいないが、教育や訓練を実施する人々が利用できる無料でダウンロードすることが可能な専門的教材を提供する主要なウェブサイトを紹介し、これらの教材の有効性について触れている。訓練担当者には非常に参考となる資料である。

本書は放射線防護教育を専門とする大学教員にとって、内容に抜けなく教育する意味で非常に有用な資料となる。医療現場においては、放射線取扱主任者や診療放射線技師等の実務を行っている専門職スタッフが病院の教育訓練を担当するケースも多い。その場合、特定の領域の専門ではあるが普段教育や訓練について係っていない職種の方が教育・訓練を実施する際に何を教えたらいいか、ということをよく尋ねられる。本書は正にそのような教育・訓練する立場の方に読んでいただきたい放射線防護教育のための必携の書である。

(藤淵俊王 九州大学大学院医学研究院保健学部門)

(ISBN978-4890732425, B5判 56頁, 定価本体 4,500円, 日本アイソトープ協会, ☎03-5395-8082, 2014年)

☺ 会員係よりお願い ☺

Isotope News や RADIOISOTOPES の送り先、勤務先などが変わった場合はメール、Fax、ハガキ等でご連絡ください

▷▷総務課会員係

☎113-8941 東京都文京区本駒込2-28-45

☎03-5395-8021 Fax 03-5395-8051

E-mail [Kaiin@riias.or.jp](mailto:Kaiin@riias.or.jp)

…………… 会員番号をお忘れなく ……………

移りゆく薬草の一角

第17回 イヌサフラン 鈴木 達彦

香辛料に用いるサフランがアヤメ科の植物であるのに対して、イヌサフランはユリ科の植物です。球根から花をつけることは似ていますが、サフランの花の色は落ち着いた紫色で、イヌサフランのピンクに近い花の色はややきつい印象が持たれます。また、イヌサフランが葉を茂らせるのは、花期が終わって冬が明けた春先からであり、開花時には葉がないため余計にはでやかさが増します。

植物の名称で、頭に「イヌ」が付けられたものは、元の植物に形態が似ていても、利用法について比べると、あまり役に立たないものであることが多くあります。サフランは高価な香辛料ですが、イヌサフランは毒草であるので香辛料として役立てることができません。その点は正に「イ



ヌ」かもしれませんが、イヌサフランの学名は *Colchicum autumnale* といい、地下部の球根（鱗茎）にコルヒチンを含みます。香辛料としては使えませんが、コルヒチンは細胞分裂の阻害薬として痛風治療や農業、園芸の分野で品種改良に活用されているのはよく知られるところです。コルヒチンが単離されるずっと以前から、イヌサフランは痛風の鎮痛薬として用いられてきました。

(帝京平成大学)